序　章　「良妻賢母」とは何か――7
本書の目的と視座……7
構成と概観……11
第一章　「女学」の雑誌の登場――14
第一節　「婦女改良」――欧化主義の時代に……14
「女学」とは……14
『女学新誌』――「優和温雅貞烈の良風」への眼……17
『女学雑誌』――「欧米の女権」を求めて……20
『女学雑誌』の変容……24
第二節　日本の「女学」を求めて……27
博文館の創業……27
『日本之女学』の創刊……30

「処世」の支えとして——『婦女子』『婦女雑誌』の創刊……35
第三節　女子教育の発展の中で……40
『女学世界』の創刊とその時代……40
学びの場として……42
投稿誌としての『女学世界』……47
大正期の『女学世界』……53
第二章　女子教育における試み——63
第一節　女学校の寄宿舎……63
女学生の登場……63
寄宿舎の「主婦」……68
家庭の体験……71
第二節　裁縫を学ぶということ……75
女の学びや……75
裁縫女学校の目的……76
開拓地札幌の女子教育機関……78
第三節　女子職業学校——「一芸の士」の育成……82
「婦功」への着目……82
女子職業学校の設置……84

札幌の「良妻賢母」を求めて……89
第三章　家庭の担い手——99
第一節　一家団欒をめぐり……99
「家庭」の役割……99
一家団欒の理想と現実……102
第二節　「家庭の趣味」としての園芸……107
園芸への着目……107
園芸から学ぶもの……109
第三節　「生活難」の中で……114
女が働くということ……114
開拓地北海道における女の働き……119
第四章　女を描く——『女学世界』読者の営み——127
第一節　雑誌を読む女……127
雑誌への投稿・投書……127
読者の交流……129
読者のくらしと『女学世界』……133
「新しい女」への眼……138

第二節　「寄書」に込めた思い……140
「寄書家」とは……140
雑誌への関心……142
『女学世界』への登場……145
『女学世界』における活躍……150
内藤千代子の魅力……152
第三節　「良妻賢母」の日常……158
「良妻賢母」の現実……158
下女のいない生活……161
「女学校出」の真価……167
「中流」の「奥様」……170
終　章　「良妻賢母」を描く……181
あとがき……187
主要参考文献……190
索　引